

2021年10月6日第110回BABOK研究会議事録

PM学会中部支部

IIBA日本支部

1. 日時

2021年10月6日(木) 19:00～21:00

2. 場所

Zoom(Web会議システム)

3. 出席者

(敬称略順不同)

近藤、中村、川島、大喜、大橋知、河村、鈴木(記) 以上7名

4. 議題

(1) 仮想企業ArumakaNのBA活動をテーマとしたBABOKの体系的学習

(2) その他連絡・相談事項など

5. 議事

(1) 仮想企業ArumakaNのBA活動をテーマとしたBABOKの体系的学習

11月17日のPM学会中部支部シンポジウムにて、今年度の活動報告を行う。ひとまず鈴木が今年度の活動内容をサマライズしたPPTを作成した。このPPTをベースに、近藤座長に本文の骨格を作成いただき、中村氏に肉付けしていただき、次回研究会でレビューする。

前回以降の進捗として、ArumakaNが作成したマネジメントコクピットの資料を、事例製造業の管理者層に説明した。作成した補助資料で、プロジェクト業務を全く実施できていない担当者が見える化され、抵抗を受ける結果になった。

定常業務とプロジェクト業務という対比で表現せず、定常業務の重要性は評価しつつ、プロジェクト業務の価値も認識してもらい、浸透させてゆく展開方法が良いのではないか。マネジメントコクピットを導入し、PDCAを回してゆくことで、必ず課題は達成できるようになるはず。

ArumakaNの事例製造業では、品質目標を達成しなくて良いと考えている管理者がいる。また世の一般的な改善手法など絵に描いた餅、役に立たないと思っている管理者がいて、PDCAなどを回そうとしても、政治的な圧力がかかってうまくゆかないことがある。

企業風土に合わせた進め方が必要ではないか。新しく出たPMBOK7の日本語版でも、テラリングが重要と言っている。ちなみにPMBOK7では一層BA寄りになっている。

テーラリングも必要だが、そもそも企業風土を変えなければ改善が難しい。一例として未だに不適合ではなく不良という言葉を使用していて、不適合とすべきだと説明すれば理解して貰えるが、現実には不良という言葉が使われ続けている。

社内的に不良ではないが、対外的に不適合だったという事件事例があると、納得してもらいやすくなるのではないか。

ArumakaNとしては、今回の研究課題に沿った調査の結果、事例企業では重要な経営指標となるアウトプットは作成されているが、それが有機的に連携できていないため、役に立っていない印象を受けた。また、品質管理とマネジメントの知識。経験が不足していると思われるため、次年度の課題としてコンサル活動を推進してゆきたい。

(2) その他連絡・相談事項など

今年度のシンポジウムでは、デバッグ工学研究所の松尾谷徹氏に、東京都の新型コロナウイルス感染症対策サイト開発を事例とし、通常のクローズ型システム開発に対比した、オープンコミュニティ型開発の特徴についてご講演いただきます。最大の差は、開発スピードで、なんと二桁ほどの差があったそうです。

本研究会参加者は、PM学会未加入でも無料参加できますので、ぜひ積極的な参加をお願いいたします。

6. 次回予定

(1) 日程

第111回BABOK研究会は、2021年11月第1週の水曜日が祝日の為、11月2日(火)、11月4日(木)、11月5日(金)の候補の中から、「調整さん」を使って投票いただく。

(2) 場所

ZOOM(Web会議システム)予定、※URLは前週の開催通知で連絡いたします。

(3) 議題

仮想企業ArumakaNのBA活動をテーマとしたBABOKの体系的学習

7. 成果物

(1) [2021年度BABOK研究会活動報告](#) (鈴木)

(2) 事例企業に関する成果物は非公開とさせていただきます。

8. その他

とくになし